

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

タケノコの成長と保育カンファレンス／二本松市立あだたら保育所（福島県）

子どもたちが大好きなお散歩。戸外へ出ることで、子どもたちは園内とはまた違う豊かな体験、視野の広がりが見られることと思います。

今回は、そのお散歩先を自分たちで決め、出かけていくことで、新しい発見や身近な人との関わりを、遊びや生活に取り入れたり、保育者間で共有したりするエピソードをご紹介します。



● タケノコへの興味・関心～自分たちで決めた散歩コース～（4・5歳児）

✦ お散歩、どこに行く？（5月中旬）／5歳児

昨年度5歳児が修了する際に譲り受けたお散歩地図をもとに、今年度は自分たちで散歩コースを決め散歩に出かけることにした。自分たちで決めたということにワクワクしている様子。行先は地図にあまり書き込まれていない方面に決定した。

「あれ？竹が見えた！行ってみよう！」と、子どもたちが言うと、ご近所の方が出てきて、自宅の竹林のタケノコを見せてくれた。子どもたちは、「タケノコって触ってみたらフワフワ」「竹になると大きいんだね」など感じたことを伝え合う。

ご近所の方が「一つだけ、印つけて掘らないでおくから、どのくらい大きくなったか、また見においで」と子どもたちに声をかけてくれた。そこで子どもたちは、次に来た時に大きくなったかわかるように、とっさにAさんの水筒で大きさを測ることにした。

4日。子どもたちは「タケノコを見ていない、小さい組に伝えたい」と、紙皿と画用紙でAさんの水筒と同じ大きさのタケノコを作った。雨で行けないが、雨でタケノコが大きくなっているかもしれないと、水筒の横にリュックを並べ、大きさをイメージし合っていた。



自宅の竹林のタケノコを見せてくれるご近所の方



水筒と同じ大きさのタケノコを作るAさん

✦ 大きくなったのは、雨のせい？（5月下旬）／4・5歳児

5歳児クラスと4歳児クラスの子供たちでタケノコを見に行く。

「あれ？このタケノコ、Aちゃんと同じ大きさになってる！」

「いつの間に…」

「昨日、雨の水を飲んだからじゃない？」

「そうだ！雨の降らない時に見に行ったら、あんまり大きくなってないかも？」などと、子どもたちは雨の日と晴れの日の大きさの違いに関心をもつ。

一週間後。晴れが続いたので、掲示物に関心をもっていた3歳児クラスの子供たちも一緒にタケノコを見に行く。「本当だ。大きくなってる！」タケノコは予想をはるかに超えて、大きくなっていった。保育者は大きさを測る紐を用意していたが、子どもたちは、自分とどちらが大きいかなど、身近なもので比べていた。



玄関脇に等身大のタケノコを作り掲示

後日、玄関脇に、タケノコ便りや子どもたちが作った等身大のタケノコを掲示すると、親子で見
て、タケノコについて、会話をしている様子が見られた。

● 保育カンファレンスより

- ・ 保育者A「私も、竹になっていく過程を初めて見て、びっくりすることがたくさんありました」
- ・ 保育者B「初めは新しい散歩コースが見つかったと喜んでいたのですが、地域の方に近くでタケノコを見せてもらうことができ、タケノコの成長を子どもたちも保育者も間近で感じることができました。貴重な経験です」
- ・ 保育者C「もうすぐ、七夕会。震災後、市販の笹竹に飾り付けをしていたので、本物の笹に飾り付けをする経験がないんです。今回、地域の方の協力もあり、竹を見せてもらえ、少し愛着もわいているようなので、笹飾りに繋がれたらいいなと思っています」
- ・ 保育者D「地域の方の協力で、貴重な経験をさせてもらったよね。ありがたいね」などの話し合いがなされた。

✦ 七夕飾り作り（6月下旬）

七夕飾りを作り始める。

- Aさん「笹に飾るんだよね。早く飾りたいね。」
Bさん「でも笹がどこにもないよね。困ったね」
Cさん「買ってくる？」
Dさん「いいね！でも、保育所の外に売ってないよね」
Eさん「僕の家にもないな。」
Fさん「あ！タケノコおばさんをお願いしたら？」
子どもたち「いいね！」

その後も、子どもたちは、
「タケノコおばさんに何て書く？」
「僕、絵を描くよ」
「いいね。どうやってお願いする？」
「郵便屋さんをお願いしようよ」と話が盛り上がる。

後日、郵便屋さんがお手紙を届けに来てくれた。

- Aさん「タケノコおばさんからじゃない？」
Bさん「きりん組さんにも教えに行こう！」
「タケノコをとりまきてもいいですよって書いてあるよ。」
みんな「やったー！」

● 保育カンファレンスより

- ・ 保育者A「竹をもらいに行く日。いつも消極的なDさんが、お母さんがお休みだから、休む予定だったんですが、『どうしても行きたい！休みたくない』ってお母さんに伝えたそうです」
- ・ 保育者B「きりん組さんも朝ごはんいっぱい食べてきたよ。竹取りに行くんでしょ！と張り切って当園してきました」
- ・ 保育者C「一番驚いたのは誰一人、「疲れた」「終わりたい」という子がおらず、子どもたちみんな、『大丈夫だよ。自分たちで運ぶから、任せて！』と言って歩いていました」と、各クラスの様子を伝え合った。



竹から竹が生えていると驚く



七夕飾りを作る



ご近所の方から手紙が届く



ご近所の方に竹をもらいに行く

✿ 考察

- 今年度は掲示物を工夫し、家庭にも知らせる工夫をしたことで、親子の会話が増えた。また、分からないことがあると子どもなりに考えたり、家庭で聞いてきたり、自分なりに想像したりするなどの経験が増えたように思われた。
- 保育所内だけでなく地域の協力で、タケノコの成長を観察でき、いろいろな発見や気づきにつながった。七夕会に子どもたちが関心を寄せていた笹竹を使ったことで、七夕会への興味や関心がさらに高まっていったように思われる。
- カンファレンスを積み重ねることで、保育者自身が子どもの姿に心を動かし、理解しようとする意識するようになり、園全体で保育の質の向上に向けて取り組めるようになってきた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <https://www.sony-ef.or.jp/preschool/>」